

## 「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部1年 立石杏子

## ① 学習成果

以前から、私は日本語以外の言語でコミュニケーションをとることに苦手意識があり、留学や国際交流に興味はありながらも行動する勇気を持てなかった。そのため、三週間という短期の留学を経験することで、そうした苦手意識を克服するきっかけにしたいと考えていた。そして、今回の派遣に参加したことで、苦手意識はまだまだあるものの、留学などに対して以前よりも可能性や意欲を持てるようになったように思う。最初はなかなか現地の人とコミュニケーションを取れなかったが、少しずつ話してみることに慣れることができた。他の参加者の人たちが積極的に英語や中国語で話しているのを見たり、国立台湾大学の学生さんたちの英語力やモチベーションの高さにも刺激も受けた。また、台湾大学に短期間ではあるが通ってみて、留学してみたいという気持ちも強まった。しかし、話せないことでもどかしい思いをすることも多々あり、言語のためだけに留学を諦めないためにも、もっと努力しようとも思えた。

## ② 海外での経験

今回のプログラムで、私は初めて三週間も海外に滞在した。三週間実際に学校に通い生活してみたことで、単なる旅行では知ることができないような経験ができた。プログラム以外の時間も豊富にあったこともあり、自分の興味のあるところへ自分の力を出かけてみたり、台湾で出会った人と遊んだりする中で、現地の人たちの実際の生活を垣間見ることができ、日本との違いも感じ、三週間では全く足りない台湾の魅力を知ることができた。また、台湾の人々の優しさも印象に残っている。休みを使って色々な場所に連れていって台湾のことを教えてくれた。自分だったらこんなに親切にできたかなと思うほどで、もし日本で同じような機会があれば私も同じようにしたいと強く思った。

## ③ プログラム内容

平日の午前中は中国語を勉強し、平日の午後や土曜日に台湾の文化を経験したり学んだりしたりするというプログラム内容であった。中国語の授業では、自分のことを自分の中国語で話すという経験ができたことがよかった。中国語を学び始めてから、文法事項を勉強したり例文を読んでみたりということはしていたが、なかなか自分で考えて話すということはできていなかった。このプログラムの中でそういった学習を毎日行えたことが、今後の中国語の学習にもつながると感じた。また、台湾の文化を教授やガイドの方、学生さんたちからお話を聞きながら学べたことも、貴重な経験であった。観光だけではわからない面まで、台湾の方々から学ぶことができた。充実したプログラムであり、この三週間の中で出会えたすべての方に感謝したい。

## ④ 進路への影響

このプログラムを通してたくさんの人と出会い、さまざまな話を聞く中で、自分の中での進路の選択肢は広がったように思う。プログラムに参加する前までは、海外という選択肢もあることを知ってはいても、自分からは程遠いように感じていた。しかし、複数の言語を駆使しながら学んだり、仕事をしたりしている方々を見て、憧れを抱いたし、自分にもそういった選択肢があることを実感できた。